

## 「主体的再編成」の論点

同志社大学 松 本 通 晴

村研の共通テーマを秋の大会に向けてさらに論点を煮詰たり、新しく提起したりすることで、いろいろと考えさせられてきましたことの二、三を申し述べることにいたします。しかし格別変わった意見をもちあわせているわけありませんし、また、充分私の方で共通テーマの意味を理解して、その上で発言しているとの自信もありませんので、不十分であるとの自責の念にかられております。むしろ高橋明善さんのすでに出されている「視点」を読んで、それが私には大変参考になりましたし、また多く教えられるところがありましたことを先に申し上げておきたいと思ひます。

こうした中でも私にとってやはり一番問題となるのは「主体的再編成」をどう考えるかにかかわっております。すなわち(一)この言葉をどう理解したらよいか。(二)歴史の中でどのように位置づけたらよいか。また(三)その主体的再編成において農民―女性がどのようにかかわってきた

のか、などの点であります。それらをもう少し深く次のように申し述べてみようと思ひます。

第一の「主体的再編成」の意味に関しては、私としては、これを広く理解したいと思ひます。そうでなければ、きわめて意義的であり、きわめて主体的でもある再編成の実例を求めることは非常にむずかしいと思ひているので、その場合には、この主体的再編成の言葉を使用することじたいに疑義が生じてくると思うのです。およそ農民には、こうした試みの実現しにくい状況がたえず迫ってきたと思うからです。そのために(1)村落生活の中で農民の種々試みてきた努力は、たとえそれが実現せず挫折に終わったとしても、生活の中から生み出されたものであるかぎり主体的な試みであるとして取り上げようと思ひのです。(2)また同時に、意識的に主体的な再編成の試みであるといえなくても、場合によっては無意識に根ざした試みであっても、それに一定の歴史的意味を付与することによってそれらを再編成として汲み上げていかなければならないと思ひのです。そういうように私としては理解しておこうと思ひます。

第二に私としてはいうまでもなく、こうした主体的再編成の試みを現状の中に見て、そこに農民の主体的エネルギーをみきわめたいと思ひのです。しかし同時に、近・現代の中でもそれらの経緯を知る努力をしたいものと思ひます。そしてこの努力の中で再編成の方向をともに指摘しなければならぬと思ひます。村落生活の中でむらや生活が「互解」されようとするとき、農民の努力はたえず再編成―むらを志向し続けるわけですが、それがどの方向にむかっているのか、またはどの方向にむけられているのかを充分にみさだめる必要があると思ひます。それによって主体的再編成の歴史的な位置づけを知ることができると思ひます。第三は前二者とやや文脈を異にすることですが、農村生活の現状において、とくに農業労働やむら生活が主婦によりかかっている実態を見る

とき、農業労働やむら生活の中で農民―女性の果たしてきた種々の努力を意識的に取り上げなければならぬと思うのです。そのことは再編成とも深く関連してくる事柄だと思えます。

以上、思いつくままに、しかも非常に漠然といくつかのことを申し上げてきましたが、論議はもちろん具体的なものを通して交換されることが大切であると思っております。